



追 悼

田邊等先生を偲んで

田邊等先生には、平成17年2月19日に74歳で突然御逝去された。ここに会員を代表して、謹んで哀悼の辞を申しあげる。

田邊先生は、昭和5年8月のお生まれで、昭和30年東京大学医学部を卒業、直ちに沖中内科に入局され、神経疾患の研究、臨床に尽くされた。先生の御研究は主に筋肉の形態学、病理、組織化学がご専門で、在局中ドイツに留学され自律神経系の研究をされ、神経学会に彗星の如くデビュー発表されたのがついこの間の様に思い出される。帰国後虎の門病院勤務を経て東京都立神経病院副院長から院長となられた。平成7年5月31日退任される間行政面でも活躍された。研究のみでなく、臨床神経学会、自律神経学会の領域での行政手腕は目を見張るもので国際自律神経学会 general secretary 役などのすぐれた御業績がある。

環境問題にも御熱心で患者の診かたなど、大いに教えていただく機会に恵まれた。豊富な経験に基づく神経学に関する知識と学問に対する熱意から、本学会初代から理事として御活躍をされた。

特に臨床環境医学会と日本の臨床神経学との橋渡しをすることに、力を入れていただいたが、平成5年4月17・18日に第2回日本臨床環境医学会総会会長を勤められ、東京アルコタワーで盛会にかつ、格調高い臨床環境医学会を運営された。私事にわたるが、私と先生とは、日本自律神経学会の幹事、理事として、10数年間御一緒に学会運営、プログラム委員、編集委員として、宇尾野公義理事長のもとで働いた。当時田邊先生は常に日本の劣悪環境、薬の乱用、環境化学物質の多用などそれに対する原因不明とされる神経疾患の対策に2人で頭を痛めていた。これら患者の救済のために新しい学会を作り解決して行くしかないという意思を持ち、現理事長宮田幹夫先生達と学会設立にこぎつけた。田邊先生の鋭い切り込み発言は強力で、日本臨床環境医学会の設立当時から学会育成にお世話になった。先生はまさに不撓不屈の精神で学会とくに若手育成にも大変な気配りを戴いた。葬儀の折、往時活躍された沖中内科のメンバーが集まり、余りにも早くこの世を去った先生のこれまでの偉業につき、話題が尽きることはなかった。本学会運営に関する先生の多大なる御尽力、理事会での、歯に物を着せない鋭い御指摘などその業績は枚挙にいとまがない。

茲に、謹んで田邊等先生のご冥福をお祈りする。 合掌

平成17年3月14日

日本臨床環境医学会 顧問

石 川 哲